



## 行事報告 [7月-12月]

### 10月 有水晶体内レンズ挿入術(ICL)認定医が2名に

当院は大原瞳と石田学の2名の眼科専門医が認定医になりました。これでぼぼあらゆる近視・乱視の治療が可能となりましたので、眼鏡やコンタクトレンズでお悩みの方は是非ご相談ください。



### 11月 永年勤続者を表彰

永年勤続表彰式を当院のみで行いました。勤続30年1名、20年1名、10年2名、5年6名。「企業は人なり」長年勤めてくれている数多くのスタッフに感謝です。



### 7月 フォーサム2021

日本眼感染症学会および日本眼炎症学会、日本コンタクトレンズ学会総会、日本涙道・涙液学会総会が共同で開催した学会「フォーサム2021 in 仙台」が23日～25日、仙台市の仙台国際センターで開催されました。同学会に松木医師がオンデマンド配信で参加しました。

### 10月 臨床眼科学会

福岡市の福岡国際会議場で、28日～31日に開催された「第75回日本臨床眼科学会」に石田院長が現地参加しました。

### 10月 糖尿病眼学会

8日～9日、滋賀・大津市のびわこ大津プリンスホテルで開催された「第27回日本糖尿病眼学会総会」に松木医師がオンデマンドで参加しました。

### 12月 網膜硝子体学会

3日から5日まで、東京・千代田区の東京国際フォーラムで開催された「第60回日本網膜硝子体学会総会 東京」に遠藤医師がオンデマンドで参加しました。

## 専門外来のご案内 [1月、2月、3月、4月]

日程は変更になる場合があります。なお、専門外来は予約制となっております。詳しくはスタッフにお尋ねください。

### 網膜硝子体専門外来

順天堂大学練馬病院 眼科教授 横山 利幸先生 1/21、3/11  
順天堂大学浦安病院 眼科助教 真下 圭太郎先生 4/2  
寺尾医師、米田医師他 1/15、2/12、2/19、2/21、3/7、3/26、4/9

### 角膜屈折矯正専門外来

聖路加国際病院 顧問 山口 達夫先生 1/22、2/19、3/19、4/23  
国立長寿医療研究センター病院 眼科部長 稲富 勉先生 4/2

### 緑内障専門外来

日本赤十字社医療センター 前眼科部長 濱中 輝彦先生 1/20、2/3、2/4、2/17、3/3、3/4、3/24、4/7、4/8、4/21  
東京大学医学部附属病院 眼科教授 相原 一先生 1/29、3/5

### 眼形成・涙嚢専門外来

東邦大学医療センター大橋病院 非常勤講師 矢部 比呂夫先生 1/27、3/31  
京都府立医科大学 眼科助教 渡辺 彰英先生 2/26  
聖隷浜松病院 眼形成眼窩外来 上田 幸典先生 3/19

## 患者さんから教えて頂いたコンタクトの怖さ



初診時のT.Mさんの角膜の写真(左)



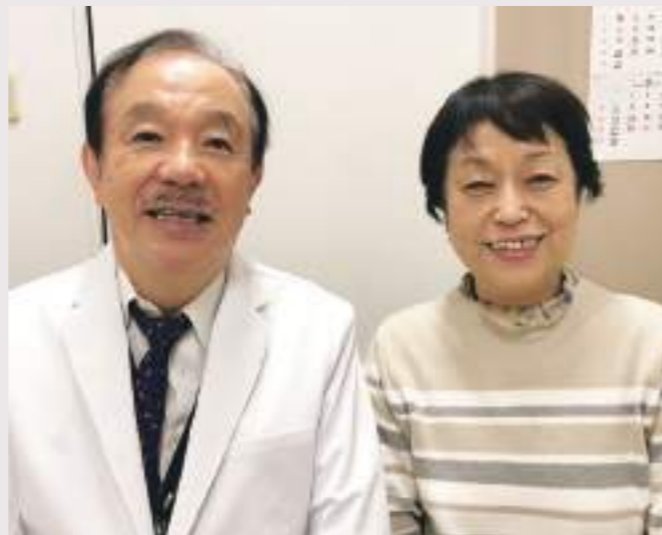
初診時のT.Mさんの角膜の写真(右)



表層角膜移植後

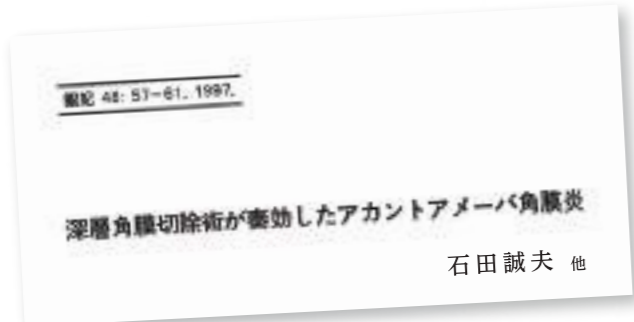


病巣部角膜の切除



石田院長とT.Mさん

今から26年前に旧石田眼科にご家族に手をひかれてT・Mさんがはるばる旧豊栄市から来院されました。新潟で診断がつかず、長岡に行かれそこから紹介されて来られました。初診時目を見せてもらった時は衝撃的でT・Mさんと生忘れることのない出会いでした。両眼角膜が真っ白に混濁して何かの眼薬症もしくは遺伝性の疾患かと思われました。何日か入院して頂き非常に苦慮しながら、最終的に診断をつけられる事ができたのは、受診後14日で、コンタクトレンズを井戸水で洗浄した際に混入したアカントアメーバ原虫によるものでした。当時日本での報告はまだ出たばかりで、寒い地域での発症は少なく、もちろん新潟では報告はなく私達の報告が北限でした。聖路加国際病院の眼科部長山口達夫先生とともに加療を開始しました。まず病巣部角膜を出来るだけ深く切除し辛抱強く洗浄を行い、最終的にアカントアメーバを駆逐することができました。この治療法を論文に発表し今はこの切除、洗浄が治療法として確立され、当時イギリスからも論文の内容の問い合わせがありました。T・Mさんはこの治療によく耐えて、その後、表層角膜移植手術、白内障手術をされて、運転免許も更新され、今も遠方から車で通院されています。最近コロナ禍のため自宅です機会が多くなり、若者の間ではネットや量販店で気軽に購入し、特にカラーコンタクトを美容感覚で安易に使用している方が増加しています。この様な状況下でアカントアメーバや他の細菌性角膜潰瘍になるケースが考えられないほど増えてきています。T・Mさんはこの難病にも挫けず、明るく立ち向かい病気を克服しつつあります。彼女から北国では初めて見つけたアカントアメーバという病気に絶対に病気に負けない人間性を教えていただきました。最後にコンタクトレンズは目の中に入れる医療用具です。不用意に購入・使用しないこと。何か異常を感じたらすぐ外し、眼科専門医にできるだけ早く相談・診察を受けてください。



## 絆

100歳を超えて  
通院してきてくれている  
患者さんとともに

## 最先端の治療で多くの患者さんがコンタクトレンズや眼鏡から解放されています

### モダンレーシック

モダンレーシックとはフェムトセカンドレーザー、エキシマレーザーを使用します。OPDの正確なデータをレーザーに入するので、より正確に視力を矯正出来る方法です。

・8名15眼 平均年齢33.5歳(19歳～45歳)

治療前視力

平均 0.06

治療後視力

平均 1.2

(令和3年3月～7月)

モダンレーシックは県内では当院のみ、ICL手術は県内では当院を含め3施設のみ治療を行っております。

説明用ビデオを院内で放映中。貸し出しもしています。是非ご覧下さい。興味のある方は **無料説明会開催中**

### ICL手術 [有水晶体眼内レンズ]

当院ではICL(有水晶体眼内レンズ)手術も始めました。モダンレーシックでは適応外の強度近視の方にも適していますので、興味のある方はお気軽にお尋ね下さい。

性別・年齢	治療前	治療後	近視度数
男性25歳	右 0.05 左 0.05	右 1.5 左 0.9	(右-6.5D→+0.5D) (左-6.0D→+0.5D)
女性43歳	右 0.08 左 0.06	右 1.0 左 1.2	(右-9.0D→±0) (左-8.5D→±0)
女性46歳	右 0.03 左 0.02	右 1.2 左 1.5	(右-10.75D→±0) (左-11.0D→±0)

## 最新眼科医療器機紹介

### 光干渉断層計 CANON Xephilio OCT-S1

CANON社の「OCT-S1」を新潟県で最初に導入しました。網膜や硝子体の状態を短時間で広く・深く計測できる器械です。これまでは捉えるのが困難だった広範囲かつ深部に至るまでの眼底三次元画像を一度の撮影で取得し、搭載されているAIが鮮明に写し出します。糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症、網膜剥離、加齢黄斑変性症などの診断精度の向上につながります。



スペシャルオリンピックス世界大会金メダル  
左:アブダビ大会 右:愛知大会



アブダビ大会でのTさん(写真一番右)



アブダビ大会での様子

**当院患者様のTさんがスペシャルオリンピックス世界大会に参加**

当院の患者様のTさんがスペシャルオリンピックス世界大会のゴルフ競技に、パートナーとして参加されました。Tさんスペシャルオリンピックス出場歴

競技種目: ゴルフ 金メダル(パートナーとして参加)

2018年スペシャルオリンピックス夏季全国大会・愛知

2019年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アブダビ

**スペシャルオリンピックスとは...**

スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。非営利活動で、運営はボランティアと善意の寄付によって成り立っています。日本の理事長は有森裕子さん。

オリンピックと同様に夏季と冬季で4年に一度の開催で、国内全国大会で出場者を決め、世界大会を開催しています。始まりは1968年で、故ケネディ大統領の妹ユニス・シユライバーが設立しました。

## 2021年手術件数報告 (2021年1月～12月)

● 白内障手術	1332件	● 外眼部手術	19件
● 緑内障手術	79件	● 眼瞼下垂手術	112件
● 角膜移植	13件	● 斜視	4件
● 網膜硝子体手術	214件	● 涙嚢鼻腔吻合術	10件
● 翼状片	39件	● 硝子体注入	740件

● その他	97件
● 屈折矯正治療	82件
モダンレーシック	
(タッチアップ含む)	42件
PRK、PTK	14件
ICL(有水晶体眼内レンズ)	26件
(計)	2741件

## 飛蚊症

飛蚊症とは天気の良い日、空を見上げたり、白い壁を見つめたりした時に目の前に虫や糸くずのようなものが見える症状をいいます。

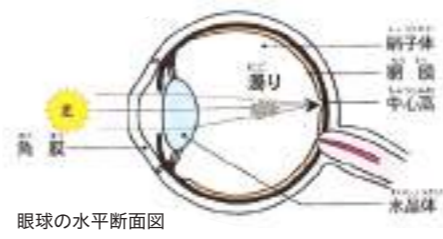
加齢とともに生理的な自然現象としてみられることがほとんどで、この場合は治療せず経過をみていきます。なかには、

**網膜剥離や眼底出血など眼の病気やまれに悪性リンパ腫などの全身疾患に関連して症状が現れる場合もあります。**

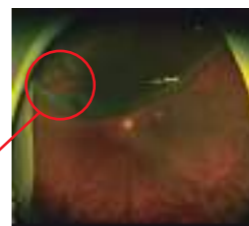
網膜裂孔(網膜に穴が開く)であればレーザー治療で対応できますが、網膜剥離や出血の場合は硝子体手術等が必要になります。

病的なものかを判断するには眼底精査が必要です。放っておかず早めに眼科を受診しましょう。

日頃から片目ずつ飛蚊症の大きさや形、数に変化がないかチェックすることもとても大切です。



眼球の水平断面図



この穴(裂孔)の部分から網膜が剥がれている

裂孔原性網膜剥離

## 術後の見え方の違い

笹川春艸さんは水墨画の大家であり、非常に素晴らしい作品を数多く残されております。

白内障術前、術後で画家のモネのブルー色が変わったとの研究がありましたが、笹川さんの術前、術後での水墨画の濃淡で感想を述べて頂きました。

白内障術前(片眼)



全体的に黄色っぽくかすんで見えるので濃淡の差がわかりづらく、表現が平坦になっている

白内障術後(片眼)



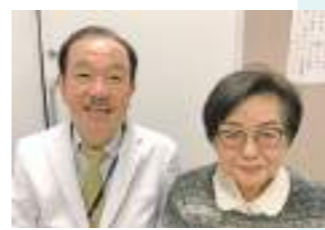
やや焦点は甘いため細かな作業は自信がないが、黄色っぽいかすみと薄墨の使い分けができています

## 笹川春艸プロフィール

新潟県上越市頸城区に生まれ。墨画を宮本沙海師と王子江師に学ぶ。内閣総理大臣賞やフランス芸術家協会にて銅メダルなど多数受賞。

作品収蔵: パリ日本文化会館、ブラジル日本総領事館、ブラハ国立美術館、ハワイ大学、ローマ法王庁バチカン大使館、新潟県庁舎など

著書: 笹川春艸自選墨画集 季節の彩り (秀作社出版)、四季の風趣 (秀作社出版) 他に共著多数



## スリランカへ寄付

石田眼科は1996年よりスリランカアイバンク協会と旧桐生臨床眼科研究所を通じてご縁があり、角膜の提供を受けています。スリランカの方は非常に親日的で、仏教の信者が多く、亡くなってしまう。失明を食い止める数多くの角膜を提供して頂き角膜移植を行っております。この度、高田ロケットクラブから角膜保存用の容器とコロナ抗原キットを送って頂きました。スリランカアイバンク協会の方から感謝のお手紙を頂きました。

